

詩編 13 編 主よ、いつまでですか?! (2020年5月4日分 TM)

主の日は礼拝に集中し、詩編黙想はお休みです。月曜日、ファイルを開き、まず心を静かに整えて詩編 13 編を読みましょう。

・主よ、「いつまで」ですか

この詩を読んでまず印象に残るのは、「いつまで」(ad anah how long) の繰り返しです。敵国バビロンの捕囚者たちの祈りの定型句となったものです。私たちは病床にあり、困難の中にあり、貧しさの中にあり、このように祈ります。2 節に 2 回、3 節に 2 回、「いつまで私を忘れておられるのか」、「いつまで、御顔をわたしに隠しておられるのか」、「いつまで、わたしの魂は思い煩い、嘆きから解放されないのか」、「いつまで敵はわたしに向かって誇るのか」。主よ、民が新型コロナウイルス感染に不安を持ち、緊急事態宣言とやらを延長する。「いつまでですか」。2 節は神との断絶、距離感への嘆きです。主なる神は恵み深く、傍らにいますという信頼ゆえの嘆きではないでしょうか? 「主よ」と呼びかけるのです。3 節は、自分の内面における嘆きです。「日ごとの」「日々の」嘆きです。これも本来平安を与えられてきたものであるゆえの問いかけでしょう。後半は敵の誇りへの抗議です。敵そのものではなく、敵によって侮られる神を想っての嘆きではないでしょうか? 主なる神への信頼の裏側の表現です。わたしたちは「いつまでですか」と神と心からの神賛美と正義を求めて祈るでしょうか? 2 節の私を「忘れる」(ティシエカヘニ シャーカ) と私から「み顔を隠す」と感じることはルターが語る、「ご自分を隠す神」(イザヤ 45:15、イザヤ 54:8、詩編 89:47) に繋がり、「顧みる」(ハビター 見ること、尊重すること。青木は「熟視し給え」と翻訳) と「答えること・証言・証明すること、聴くこと」(アネニアーナー) の反対のことですが、実は神啓示の両面なのです。神はご自身を隠しながら現し、現しながら隠すのです。神はその聖性を保持されますが、それは人間を救うため、「顧みる」ための「距離」の取り方なのです。

・「わたしの目に光を与えてください」(4 節)。わたしの神よ、私の目を明るくしてください。眼は実に精巧に造られていますが、光がなければものを見ることはできません。「体のともしびは目である。目が澄んでいれば、あなたの全身が明るい」(マタイ 6:22)。私たちの瞳にイエス様が映っているでしょうか? 詩編 36:10「われらはあなたの光によって光を見る」(口語訳)。「ヤコブの家よ、主の光の中を歩もう」(イザヤ 2:5)。私たちは聖霊の光によって主なる神とこの世の事柄の深層を見ることが出来ます。究極的な事柄は「死の眠り」ではなく、主なる神ご自身であり、命であり、そうであれば、死からの甦りに到達するでしょう!

・神のみ名が崇められること 詩人は自らの救いのこと以上に、主なる神の栄誉を求めています。敵が勝ったと思い、抑圧者が、信仰者が動揺している様を見て喜ぶことのないように。敵が誇らないように(3 節)。「動揺する」(エメモート ムート=すべる、振るわれる、動かされる)。主なる神はそのみ名のために行動されます(エゼキエル 20:9、14、22 参照)。だから安心なのです。

4. 主の慈しみに依り頼む 2-3 節の嘆き、4-5 節の嘆願のあと、6 節で、信頼の告白と感謝が語られます。詩人は魂の格闘の末に、主の(あなたの)慈しみ(ヘセド)に信頼します。詩人の心は主なる神「あなたの救い」(ヤーシャー)において、喜ぶ(ヤーゲル)。「主を喜び祝うこと(ハーダー)こそ、あなたたちの力の源である」(ネヘミヤ 8:10)。「主(彼)は私に報いてくださった」(ガーマルアーレイ) = わたしを豊かに扱われる retribute(報いる)、recompense(償う)、deals bountifully(慈悲深く豊かに扱う)。心に「静謐」「喜び」が戻ってきましたか? さあ、立ち上がりましょう。